

今週の
みことば

「もう一人の助け主＝真理の御霊」
(イザヤ書40章12節～17節)
「だれが【主】の霊を押し量り、主の助言者として主に教えたのか。」(40:13)
(ヨハネの福音書14章8節～17節)
「そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもしないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」(14:16, 17)

今日のメッセージ要旨

◎私達は生活していく上で様々な問題に直面します。その時に必要なのは知恵であり、また助けであり、導きなのです。その際、真の導きとなるのは？

◎イザヤ書40章は「慰めよ。慰めよ。わたしの民よ」と、神様が苦難の民への呼びかけから始まっているのです(1)。神様は、自分の民が困難な中に置かれ、見捨てられたと絶望している者にも「わたしの民」と呼びかけ、「エルサレムに優しく語りかけよ」と心の琴線に触れることばで語られるのです(2)。「その労苦は終わり、その咎は償われた。そのすべての罪に引き替え、二倍のものを主の手から受けた」(2)。さばきの時は終わり、メシヤにより咎や罪は償われ、祝福が約束された。捕囚の苦難からの回復の預言、更に、終末的な預言も含まれているのです。

「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。』」(3)。新約聖書は、イエス様の登場する舞台を作ったバプテスマのヨハネにおいてこのみ言葉が成就したと語っています。神様はメシヤ(キリスト)をこの地上に誕生させる前に「荒野に呼ばれる者」としてバプテスマのヨハネを遣わされたのです(マタイ3:3, マルコ1:2～4, ルカ3:4～6, ヨハネ1:23)。

神様によって「罪と咎が許され」「贖われ」「神との負債が解決され」真の平和がもたらされるのです。更に、民に「見よ」と三度呼びかけられている(9, 10)。神様は「羊飼ひ」として、「その群れを飼ひ、御腕に引き寄せ、ふところに抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く」御方であられるのです。

◎ヨハネの福音書14章で、主イエス様は最後の晩餐の席上、聖霊(パラクレートス)を送ると約束されました。聖霊は「パラ」(脇に)と「カレオー」(呼び出す)の合成語で、「被告の脇に召喚される者」の意です。「助け主」或いは「弁護者」と訳される。主イエス様は洗礼を受けられた時、「聖霊が鳩のように天から下って、この方の上にとどまられ」た。それを見たバプテスマのヨハネは、そのイエス様こそ「聖霊によってバプテスマを授ける方」、「神の子である」と証言した(ヨハネ1:32～34)。

◎「もう一人の助け主」なる「聖霊」は「いつまでもあなたがたとともにおられる」しかも「あなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられる」と約束されており、その方は「真理の御霊」で(17)、「あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせて」くださるのです(26)。ここに「もう一人の」とあるのには、イエス様が地上で弟子たちを助けられたと同じ助けを与えることが出来る代理者との意味があるのです。

また「御霊がわたし(主イエス)についてあかし」するのです(15:26)。真理の御霊は「あなたがたをすべての真理に導き入れ」、「やがて起ころうとすることを示す」のです(16:13)。尚、「御霊はわたし(主イエス)の栄光を現し」、「わたし(主イエス)のものを受けてあなたがたに知らせる」働きをするのです。この「助け主」なる聖霊は「罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認め」させて下さるのです(16:7)。御霊の導きを大切にして歩んでいきましょう！